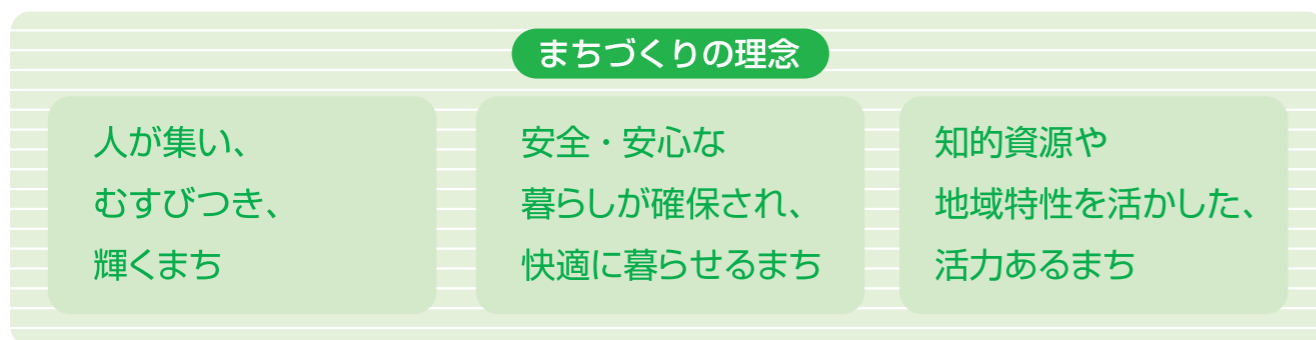


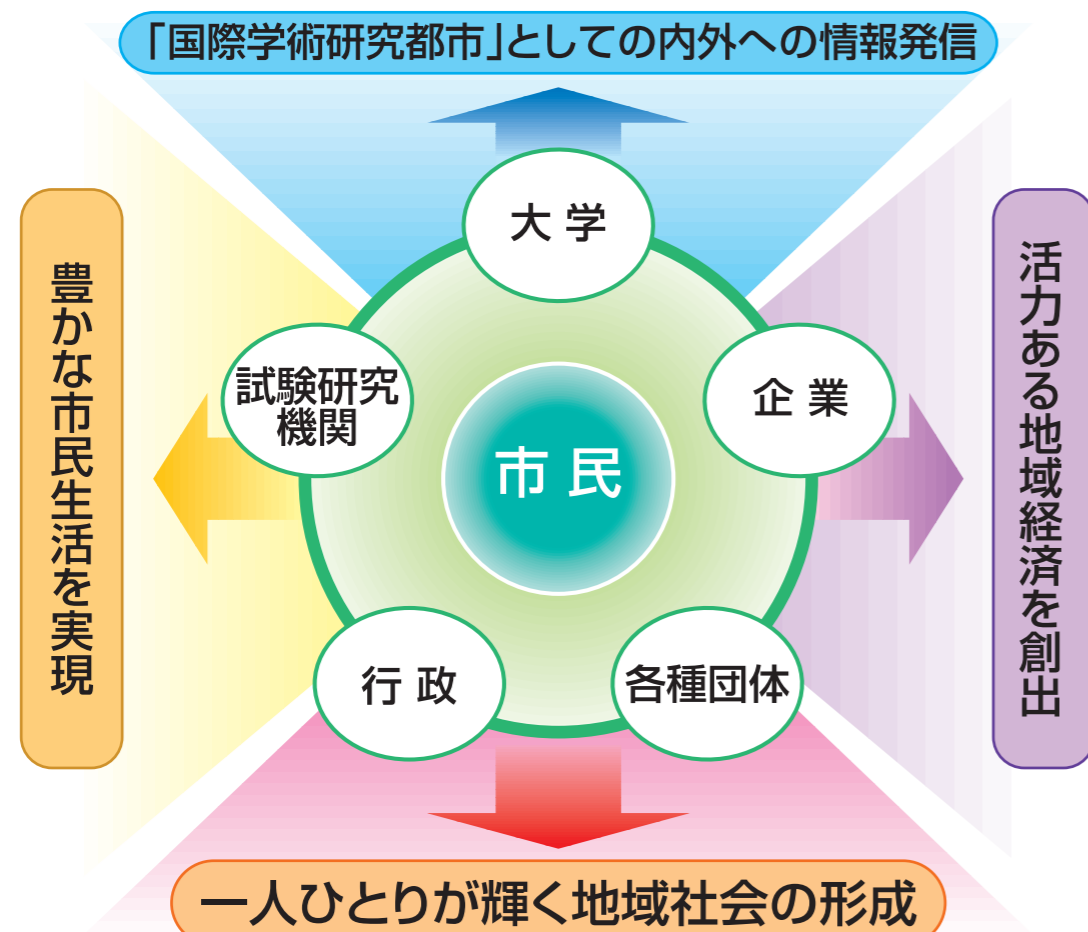
将来都市像

これまでに築かれてきた学園都市としてのまちづくりを発展的に継承していくことを前提に、「まちづくりの理念」に基づいた将来の都市像を以下のとおり設定します。



**未来にはばたく国際学術研究都市** ～ともに育み、人が輝くまち～

人と人とのつながりを活かし、一人ひとりが輝く地域社会づくりを基本として、大学・試験研究機関や企業等との連携・交流・活用を図りながら、人・もの・情報を惹きつけ、内外に情報発信力のある都市を形成し、市民生活の豊かさや活力ある地域経済を自立的に創造していくまちづくりを目指します。



将来のまちの姿

東広島市が目指す「将来都市像」をより具体的に表すため、基本構想の目標年次である平成32（2020）年時点におけるまちのイメージを、「将来のまちの姿」として以下に示します。

●平成32（2020）年における東広島市のまちの姿

世界最先端の研究や技術が集うまち

広島大学、近畿大学工学部、広島国際大学や、広島中央サイエンスパークを中心とした多くの研究機関、産業支援機関に世界中から豊かな知識と個性が集まっています。また、世界にはばたく人材が育つとともに、独創的な研究成果を活用した新事業や、技術の革新が次々と生まれるまちとして、地域内外からの関心と期待が高まっています。



都市としての魅力が高まり、拠点性が向上したまち

広域的な交通ネットワークや大学・試験研究機関等の知的資源、豊かな自然・文化など多様な資源を活かしながら都市機能の集積と高度化が図られることによって、市域内外における人・もの・情報等の交流が盛んになっています。また、生活利便性の向上に伴って定住人口も増えるなど、県央の中核的都市として、広域的な拠点性が高まっています。



快適な市民生活を支える元気な産業のあるまち

消費生活の利便性を高める多様なサービスが充実するなど、暮らしやすい生活環境が整うとともに、学術機能と連携した成長力の高い産業などが整った、第1次産業から第3次産業まで、特定の産業に偏ることのない産業構造が実現しています。



交流が活性化し、温かな地域コミュニティが形成されたまち

少子高齢化、世帯の小規模化が進行する中で、世代を超えた交流や学生との交流、国籍を超えた交流など、地域社会における交流が活性化しています。その結果、お互いが支えあい、安全・安心の確保など様々な地域課題の解決にとともに取り組む、温かな地域コミュニティが形成されています。



市民満足度の高い、さらなる発展が可能なまち

少子高齢化や地方分権の進展などに伴う厳しい地方財政の中で、バランスのとれた産業構造や雇用を土台とした安定的な税源が確保されています。また、限られた財源を有効に活用しながら市民ニーズに的確に対応した行政サービスが提供されるなど、健全な行財政基盤に基づいた魅力あるまちづくりが行われています。

